

自立活動の個別指導計画票

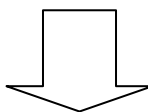
児童生徒学年・氏名 (年)

記載者氏名 ()

- ① 『自立活動の指導のためのチェックリスト』を活用し、実態例を参考にしながら「項目の内容」にチェックを入れてみましょう。
心理、医療など、多面的に子どもを理解し、実態把握欄に記入しましょう。今、どこまでできているのかも把握しましょう。

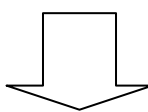
1 実態把握	
-----------	--

- ② 実態の中から、優先する指導目標を決めましょう。
◎長期目標 ○短期目標



2 指導目標	
-----------	--

- ③ 指導目標を達成するために必要な項目を、チェックしましょう。
中心となる項目には ■, 関連する項目には ☑ を入れてみましょう。



	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
3 選 定 さ れ た 項 目 に チ ェ ッ ク	<input type="checkbox"/> (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (1) 情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (1) 保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input type="checkbox"/> (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> (2) 状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2) 他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> (2) 感覚や認知の特性への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (2) 言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> (3) 自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> (3) 言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (4) 健康状態の維持・改善に関する事	/	<input type="checkbox"/> (4) 集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	<input type="checkbox"/> (4) 身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	/	/	<input type="checkbox"/> (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事	

- ④ 項目を相互に関連付けて、指導内容を決めましょう。

4 具 体 的 な 指 導 内 容					
指 導 場 面	自				
	教				
	総				
	道				
	特 交				

自・・・自立活動、 教・・・国語・算数等の教科指導、 総・・・総合的な学習の時間、 道・・・道徳、 特・・・特別活動、 交・・・交流及び共同学習

- ⑤ 指導を振り返り子どもの変容と課題となる事柄を記入しましょう。

5 評 価	
-------------	--

★チェックリスト活用のための留意点

- ・このチェックリストは『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)』(平成21年6月 文部科学省)から引用しまとめたものです。
- ・障害の状態例や具体的指導内容例、留意点は例示されているものです。対象となる児童生徒を観察し、空欄に適宜記入するなどして御活用ください。
- ・年度末等には、必ず評価し、段階をおった指導ができるよう十分引継ぎを行ってください。

各項目の解説を、チェックしやすいように箇条書きにしています。

障害の状態や指導内容から考えて、当該の項目と関連付けて指導することが考えられる項目の例示です。

項目に関わる、児童生徒の障害の状態を例示してあります。具体的にイメージできるよう特定の障害名等を明記している内容もありますが、他の障害であっても、学習上や生活上の困難が共通する場合は、ここで取り上げた状態例を参考にすることができます。

あくまで当該項目を中心として設定した指導内容例です。他の項目と関連して捉えることが必要です。

第3章実践事例集の資料番号です。各校で指導した実践事例をファイリングし、その資料番号を記入してください。

自立活動の指導のためのチェックリスト

氏名()

区分	項目	項目の内容	関連する項目例	障害の状態例	具体的指導内容例と留意点	資料番号
【3】人間関係の形成	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること	<input type="checkbox"/> 人に対する基本的な信頼感の形成 <input type="checkbox"/> 他者からの働きかけを受け止め、応ずること	【2】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・人に対する認識が十分に育っておらず、他者からの働きかけに反応が乏しい。 ・他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分身に付いていない。 ・視覚障害があり、他者との関わりが消極的、受動的になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の好む関わりを繰り返し、関わる者の存在に気付かせる。 ・指導担当を決め、安定した関係を形成する。やりとりの方法を大きく変えず繰り返し指導し、相互に関わり合う素地を作ったあと、やりとりの方法を増やす。言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報を加える。 ・自分の顔を声が聞こえてくる方に向ける、相手との距離を意識して声の大きさを調整したりするなどのコミュニケーションを図るための基本的な指導を行う。 	
	(2)他者の意図や感情の理解に関すること	<input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動の形成	【2】【4】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の心の状態を読み取り、それに応じて行動することが困難である。 ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、相手の真意を読み取れない。 ・視覚障害があり、相手の表情を視覚的に捉えることが困難なため、相手の意図や感情の変化を読み取るのが難しい。 ・聴覚障害があり、視覚的な手掛かりだけで判断したり、会話による情報が円滑でないために自己中心的にとらえたりしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、立場や考えを推測するような指導を通して、相手と関わる具体的な方法を身に付ける。 ・聴覚的な手掛かりである相手の声の抑揚や調子の変化などを的確に聞き分ける。 ・状況の推移を振り返りながら、出来事の流れについて総合的に判断する経験を積ませる。 	6
	(3)自己の理解と行動の調整に関すること	<input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なことの理解 <input type="checkbox"/> 自分の行動の特徴の理解	【4】【3】-(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗経験の積み重ねにより、自分に自信がもてず、行動することにためらいがちになる。 ・経験が乏しく、自分の能力を十分理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・容易にできる活動を設定し、成就感を味わわせ、徐々に自信を回復し、自己理解を深める。 ・自分でできること、補助的な手段を使ってできること、他の人に依頼して手伝ってもらうことなどについて、実際の体験を通して理解する。 	2 4 5 12
					<ul style="list-style-type: none"> ・状況に合わせて行動することが不得意であることを理解し、行動する前に周囲を観察したり、状況を理解するゆとりをもつ態度を身に付けるように、ロールプレイなどを行う。 ・早期から成就感を味わわせるような活動を設定するとともに、自己を肯定的にとらえる感情を高める。 ・体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促す。 ・音や光に少しずつ慣れたり、刺激を避けたりすることができるようにする。 	
	(4)集団への参加の基礎に関すること	<input type="checkbox"/> 集団の雰囲気に合わせること <input type="checkbox"/> 集団に参加するための手順やきまりの理解 <input type="checkbox"/> 遊びや集団活動への積極的な参加	【2】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・目で見ればすぐに分かるようなゲームのルールが難しい。 ・会話の情報を的確に把握できにくいため、ルールや常識の理解、それに基づいた行動が困難になる。 ・友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、集団に積極的に参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ集団に参加するための手順や決まり、必要な情報を得るための質問の仕方を指導する。 ・背景を想像したり、実際の場面を活用したりして、行動の仕方や、相手はどのように受け止めるかなどについて、具体的なやりとりを通して指導する。 ・日常的によく使われる言い回しや、分からないときの尋ね方などを、小集団で学習する。 	4 11 12

実態から考えて必要となる項目にレ点を書き込むなどしてみましょう。

障害の状態例と具体的指導内容例、留意点は、左右で対になっているだけではありません。必要に応じて指導内容を組み合わせることが大切です。

空欄には、児童生徒の実態に沿った内容

★自立活動の指導のためのチェックリスト

氏名()

区分	項目	項目の内容	関連する項目例	障害の状態例	具体的指導内容例と留意点	資料番号
【1】健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input type="checkbox"/> 体温の調節 <input type="checkbox"/> 生活リズム(覚醒と睡眠などの健康状態の維持・改善)の獲得 <input type="checkbox"/> 食事や排泄などの生活習慣の形成 <input type="checkbox"/> 衣服の調節 <input type="checkbox"/> 室温の調節や換気 <input type="checkbox"/> 感染予防のための清潔の保持	【4】【5】	<ul style="list-style-type: none"> ・覚醒と睡眠のリズム, 食事や排泄などが不規則。体力が弱い。 ・特定の食物や衣服に強いこだわりを示す。 ・気が散りやすいため, 一つ一つの行動に時間がかかり整理・整とんの習慣が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な生活のリズムを身に付けるなど, 健康維持の基盤の確立を図る。 ・日中は身体を動かす遊びを十分にいき目覚めた状態を維持する指導を行う。 ・日課に即した日常生活の中で指導する。 ・困難の要因を明らかにし, 無理のない程度の課題から取り組む。 ・1日の生活状況や体調に関する情報を入手しておく。 ・家庭等との密接な連携の下に指導する。 	1
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> 自分の病気の状態の理解と改善 <input type="checkbox"/> 病気の進行の防止に必要な生活様式の理解 <input type="checkbox"/> 生活の自己管理	【2】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性糖尿病がある。 ・二分脊椎がある。 ・進行性疾患がある。 ・うつ病などの精神性の疾患があり, 食欲の減退などの身体症状や, 興味・関心の低下, 意欲の減退などがあるが, 病気によるものであることを理解できない。 ・口蓋裂の既往歴があり, 滲出性中耳炎や虫歯などになりやすい。 ・てんかんがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・血糖値を測定し, 適切な食生活や適度な運動を取り入れることで, 病気の進行を防止する方法を身に付ける。 ・排泄指導, 清潔の保持, 定期的検尿等に十分配慮した指導をする。 ・自分の体調や病気の状態を理解し, 身体機能の低下を予防するよう生活の自己管理に配慮した指導をする。 ・医師の了解を得た上で, 病気の仕組みと治療方法を理解させるとともに, ストレスの軽減を図る。 ・聞こえの状態に留意するとともに, 丁寧な歯磨き習慣の形成に努める。 ・生活管理の力を養う。 ・服薬の意味を理解し, 自己管理できるようにする。 ・発達の状態等を考慮し, その時期にふさわしい指導を段階的に行う。専門医師の助言を受ける。保護者の協力を得る。 	
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> 病気や事故等による神経, 筋, 骨, 皮膚等の身体各部の状態の理解 <input type="checkbox"/> 各部位の適切な保護と症状の進行防止	【2】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害がある。 ・聴覚障害がある。 ・義肢を装着している。 ・床ずれがある。 ・筋ジストロフィーがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・眼の構造や働き, 視力や視野についての理解を図る。視覚機能の維持, 視覚管理を適切に行うことができるようにする。 ・耳の構造や障害の理解を図る。補聴器使用の留意点を理解するなど, 自ら適切な聞こえの状態を維持できるようにする。 ・装着部分を清潔に保つ。義肢の適切な管理ができるようにする。 ・体位変換の必要性を理解し, 自分で行う方法を工夫したり, 他の人に依頼したりできるようにする。 ・病気の原因や経過, 進行の予防, 運動の必要性, 適切な運動方法や運動量などについて学習する。 ・必要に応じて, 専門の医師の助言を得るようにする。 	
	(4) 健康状態の維持・改善に関する事	<input type="checkbox"/> 運動量の減少防止	【2】 【1】-(1) ~(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害が重度で重複しており, 健康の状態を明確に訴えることが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態を把握した上で, 軽い運動や皮膚や粘膜を鍛えるなど, 血行の促進や呼吸機能の向上を図る。 	1

		<input type="checkbox"/> 体力低下の防止 <input type="checkbox"/> 日常生活における適切な健康の自己管理		<ul style="list-style-type: none"> ・たんの吸引等の医療的ケアが必要である。 ・運動量の減少、肥満や体力低下、食欲不振がある。 ・運動制限があるが、その範囲を超えて動いてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の詳細な観察、養護教諭や看護師と十分連携を図る。 ・適切な運動の実施や、食生活と健康についての学習など、自己の健康管理のための指導を行う。 ・学校生活管理指導表を活用しながら健康状態を把握し、その状態に応じて日常生活や学習活動の状態をコントロールできるようにする。 ・主治医等から健康状態についての情報を得るとともに、体調の把握のために、医療機関や家庭と連携を図る。 	
【2】心理的な安定	(1) 情緒の安定に関すること	<input type="checkbox"/> 情緒の安定	【3】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な緊張・不安の状態が継続し、集団に参加することが難しくなる。 ・治療の副作用により、貧血や嘔吐などが長期間続く。 ・自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなる。 ・障害や失敗経験により、二次的に自信をなくしたり、情緒が不安定になったりする。 ・障害が重度で重複しており、情緒が安定しているかどうかを把握することが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境的な要因(睡眠、生活のリズム、体調、天気、家庭生活、交友関係など)を明らかにし、情緒の安定や環境の改善を図る。 ・悩みを打ち明けたり、自分の気持ちを表現できるようにしたりするなどして心理的な安定を図る。 ・落ち着ける場所に移動して興奮を静めることや、その場を離れて深呼吸する方法があることを教え、実際に行うことができるようにする。 ・得意なことを生かして課題をやり遂げるように指導したり、成功したことを褒めて自信を持たせたり、自分のよさに気付かせたりする。 ・「快」の感情を呼び起こし、その状態を継続できるよう、適切な関わり方を工夫する。 	3
	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	<input type="checkbox"/> 場所や場面の状況の理解と心理的抵抗の軽減 <input type="checkbox"/> 変化する状況の理解と適切な対応方法の習得	【2】【3】【4】	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況の変化により、心理的圧迫を受け適切な行動がとれない。 ・視覚障害があり、周囲の状況を即座に把握することが難しい。 ・選択性かん黙がある。 ・急な予定の変更などに対応できず、混乱したり不安定になったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に行動し、徐々に慣れる。 ・状況の説明を聞いたり、状況把握の時間を確保する。また、身近な人に的確な援助を依頼する力を身に付ける。 ・安心して参加できる集団構成や活動内容を工夫する。教師が付き添って適切な援助を行う。 ・予告したり、事前に体験できる機会を設けたりする。 	2 3 4
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	<input type="checkbox"/> 障害の状態の理解と受容 <input type="checkbox"/> 学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上	【3】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・進行性の病気がある、また、将来の病状を認識している。 ・肢体不自由があり移動が困難である。 ・障害に起因して心理的な安定を図ることが困難である。 ・他の人と比較して時間がかかることに気付いても、それを自分自身の努力不足だと思いつく。 ・吃音などがあり、学校生活に消極的になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいを感じることができるよう工夫し、困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図る。 ・手段を工夫し自分で移動できるようにしたり、運動・動作をできるだけ自分で制御できるようにしたりする等、自ら改善し得たという成就感をもたせる。 ・同じ障害のある者同士の自然な関わりを大切にしたり、先輩の生き方や考え方を参考にする。 ・得意・不得意を知り、得意な面を活用することで、成功体験や称賛される経験を積み重ねる。 ・教師との良好な関係を築き、自分の得意なことに気付かせて自信をもたせる。 	

<p>【3】人間関係の形成</p>	<p>(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> 人に対する基本的な信頼感の形成</p> <p><input type="checkbox"/> 他者からの働きかけを受け止め、応ずること</p>	<p>【2】【6】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人に対する認識が十分に育っておらず、他者からの働き掛けに反応が乏しい。 ・他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分身に付いていない。 ・視覚障害があり、他者との関わりが消極的、受動的になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の好む関わりを繰り返し、関わる者の存在に気付かせる。 ・指導担当を決め、安定した関係を形成する。やりとりの方法を大きく変えず繰り返し指導し、相互に関わり合う素地を作ったあと、やりとりの方法を増やす。言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報を加える。 ・自分の顔を声が聞こえてくる方に向ける、相手との距離を意識して声の大きさを調整したりするなどのコミュニケーションを図るための基本的な指導を行う。 	
	<p>(2) 他者の意図や感情の理解に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解</p> <p><input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動の形成</p>	<p>【2】【4】 【6】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の心の状態を読み取り、それに応じて行動することが困難である。 ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、相手の真意を読み取れない。 ・視覚障害があり、相手の表情を視覚的に捉えることが困難なため、相手の意図や感情の変化を読み取ることが難しい。 ・聴覚障害があり、視覚的な手掛かりだけで判断したり、会話による情報が円滑でないために自己中心的にとらえたりしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、立場や考えを推測するような指導を通して、相手と関わる具体的な方法を身に付ける。 ・聴覚的な手掛かりである相手の声の抑揚や調子の変化などを的確に聞き分ける。 ・状況の推移を振り返りながら、出来事の流れについて総合的に判断する経験を積ませる。 	<p>6</p>
	<p>(3) 自己の理解と行動の調整に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> 自己の得意なことや不得意なことの理解</p> <p><input type="checkbox"/> 自己の行動の特徴の理解</p> <p><input type="checkbox"/> 集団の中の状況に応じた行動の形成</p>	<p>【4】 【3】-(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗経験の積み重ねにより、自分に自信がもてず、行動することためらいがちになる。 ・経験が乏しく、自己の能力を十分理解できていない。 ・状況にそぐわない行動をするため、友達に受け入れられず、集団参加が難しい。 ・自己に肯定的な感情をもつことができず、活動が消極的になったり、自暴自棄になったりする。 ・「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をするのか」の理解が十分でなく、「自分がどのような人間であるのか」といった自己理解が困難であるため、友達の行動に対して適切に対応することができない。 ・特定の光や音などにより混乱し、行動の調整が難しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・容易にできる活動を設定し、成就感を味わわせ、徐々に自信を回復し、自己理解を深める。 ・自分でできること、補助的な手段を使ってできること、他の人に依頼して手伝ってもらふことなどについて、実際の体験を通して理解する。 ・状況に合わせて行動することが不得意であることを理解し、行動する前に周囲を観察したり、状況を理解するゆとりをもつ態度を身に付けるように、ロールプレイなどを行う。 ・早期から成就感を味わわせるような活動を設定するとともに、自己を肯定的にとらえる感情を高める。 ・体験的な活動を通して自己の得意なことや不得意なことの理解を促す。 ・音や光に少しずつ慣れたり、刺激を避けたりすることができるようにする。 	<p>2 4 5 12</p>
	<p>(4) 集団への参加の基礎に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> 集団の雰囲気に合わせてこと</p> <p><input type="checkbox"/> 集団に参加するための手順やきまりの理解</p> <p><input type="checkbox"/> 遊びや集団活動への積極的な参加</p>	<p>【2】【6】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目で見ればすぐに分かるようなゲームのルールが難しい。 ・会話の情報を的確に把握できにくいため、ルールや常識の理解、それに基づいた行動が困難になる。 ・友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、集団に積極的に参加できない。 ・説明を聞き洩らしたり、最後まで聞かずに遊び始めたりするために、ルールを理解していない。また、理解していても、勝ちたい気持ちからルールを守ることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ集団に参加するための手順や決まり、必要な情報を得るための質問の仕方を指導する。 ・背景を想像したり、実際の場面を活用したりして、行動の仕方や、相手はどのように受け止めるかなどについて、具体的なやりとりを通して指導する。 ・日常的によく使われる言い回しや、分からないときの尋ね方などを、小集団で学習する。 ・段階的にルールを理解できるようにする。ロールプレイによって適切な行動を具体的に学習する。 	<p>4 11 12</p>

<p>【4】環境の把握</p>	<p>(1) 保有する感覚の活用に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用</p>	<p>【5】【6】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害がある。 ・聴覚障害がある。 ・障害が重度で重複している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全盲の場合、聴覚や触覚を活用する。弱視の場合、保有する感覚を最大限に活用するとともに、他の感覚も活用して、必要な情報を収集するための指導を行う。 ・補聴器等の装用により保有する聴覚を十分活用する指導を行う。集団補聴システム又は、FM補聴器等の機器の特徴に応じた活用ができるようにする。 ・個々の感覚の状態とその活用の仕方をも的確に把握した上で、保有する感覚で受け止めやすいように情報の与え方を工夫する。 ・スキンシップによる触覚や揺れの感覚で快の感情をもたらす。 ・玩具を見せる、言葉掛けをするなどして、視覚や聴覚の活用を促す。 ・動きを發展させ細かいステップで、視覚や聴覚を協調させたり、視覚と手の運動を協調させたりして指導する。 	
	<p>(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性の把握を踏まえた、情報の適切な処理</p> <p><input type="checkbox"/> 感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性への適切な対応</p>	<p>【5】【3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・眼の病気により、まぶしさを強く感じる。 ・聴覚過敏、触覚過敏がある。 ・言葉の記憶力が弱い、特定の音韻の聞き取りが難しい、読んでいる箇所を目で追うことができない。 ・位置関係の認知が難しく、漢字や図形を正しく書くことができない。 ・脳性まひがあり、文字や形を正しくとらえることが困難である。 ・まひがあり、文字や図形を書くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外活動の際には、遮光眼鏡を装用するように指導し、その習慣化を図る。 ・不快である音や感触を自ら避けたり、児童生徒の状態に応じて、少しずつ慣れたりするようにする。 ・快刺激・不快刺激をきめ細かく観察する。 ・認知特性に応じた指導を行い、不得意な課題を少しずつ改善するとともに、得意な方法を積極的に活用する。 ・一つの文字や形を取り出して、輪郭を強調して見やすくしたり、文字の部首や図形の特徴を話し言葉で伝える。 ・コンピュータ等を活用して書くことを補助する。 ・自分の得意な学習スタイルを知り、自ら使えるようにする。 	<p>8 12</p>
	<p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> 補助機器の活用</p> <p><input type="checkbox"/> 他の感覚や機器での代行手段の活用</p>	<p>【5】【2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害がある。 ・聴覚障害がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大読書器、弱視レンズなどの補助具を効果的に活用する。感光器など、視覚情報を聴覚や触覚で代行する機器を活用できるように指導する。 ・補聴器等の活用、読話、手話、指文字、キュード・スピーチなどを代行手段として活用する。補助手段や代行手段の特徴及び機能を理解し、児童生徒が、障害の状態に応じた活用方法を工夫できるようにする。 ・障害の状態や発達の段階、興味・関心に応じて、将来の社会生活等に結び付くように補助及び代行手段の適切な活用に努める。 	<p>7</p>
	<p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること</p>	<p><input type="checkbox"/> いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段の総合的な活用</p> <p><input type="checkbox"/> 情報収集や環境把握による的確な判断や行動の形成</p>	<p>【3】【4】 【6】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害があり、白杖を利用している。 ・聴覚障害があり、補聴器の活用の仕方によって、音の方向のとらえ方に違いが生じる。 ・聴覚障害があり、周囲の状況を的確に把握しにくい。コミュニケーションの不十分さの影響で、物事の推移や、相手がどう思っているか、これから何が始まるかについて、予想できにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の音、太陽の位置、においなど、周囲の状況を把握し、それに基づいて的確に判断し行動できるようにする。中等部・高等部などでは、携帯電話のナビゲーション機能を利用する。 ・視覚や嗅覚などの感覚を統合的に活用したり、様々な感覚をいかに活用するかについて考えさせたりする。 ・視覚や嗅覚などの感覚を活用して情報を収集したり、多様な手段を活用した積極的なコミュニケーションを通して相手を理解したりするとともに、それまでに得ている情報と照らし合わせながら、周囲の状況や人の気持ち、今後の展開等を推察できるようにする。 	

	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	<input type="checkbox"/> ものの機能や属性, 形, 色, 音の変化する様子, 空間・時間等の概念の形成 <input type="checkbox"/> 獲得した概念を, 認知や行動の手掛かりとして活用すること	【4】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害がある。 ・身体の動きの不自由さから, 自分の体の状況を十分理解していない, 空間における自分とものとの位置関係の理解が困難である。 ・左右の概念把握が困難で, 指示や説明が上手く理解できない。 ・聴覚障害がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・触覚を活用して指導する。適切な認知, 行動の手掛かりとして, 形や大きさ, 機能等の概念を的確に活用できるようにする。 ・自分の姿勢と対象の位置関係を意識させ, 言葉と結び付けながら空間概念の形成を図る。 ・見る, 触るなどの体験的な活動と, 位置や方向を示す言葉を関連付けながら指導する。 ・言葉と行動の対応関係を, 生活の様々な機会を通じて繰り返していくことで, その概念を的確に身に付ける。 	8
【5】身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	<input type="checkbox"/> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持 <input type="checkbox"/> 上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得 <input type="checkbox"/> 関節の拘縮や変形の予防 <input type="checkbox"/> 筋力の維持・強化	【2】【4】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作が未習得であったり, 誤って身に付けてしまったりしているために, 生活動作が十分にできない。全身又は身体各部位の筋緊張が強すぎたり, 弱すぎたりする。 ・筋ジストロフィーで病気の進行のため筋力の低下が見られる。 ・知的障害があり, その発達の程度等に比較して, 身体の部位を適切に動かしたり, 指示を聞いて姿勢を変えたりすることが困難である。 ・視覚障害によって身体の動き等を模倣することを通して基本的な運動・動作を習得することが困難である。 ・身体を常に動かして, 自分でも気が付かないうちに姿勢が崩れ, 活動を継続できなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張を弛めたり, 適度の緊張状態をつくりだしたりする。 ・筋力の維持を図る運動を行う。 ・より基本的な動きの指導から始め, 徐々に複雑な動きを指導して, 次第に, 目的の動きに近づける。 ・姿勢や身体の動きについて, 教師の身体や模型などに触らせて確認した後, その姿勢や動きを繰り返し学習する。 ・姿勢を整えやすいような机やいすを使用する。姿勢保持のチェックポイントを自分で確認できるようにする。 ・必要に応じて医師等の専門家と十分な連携を図る。 	
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	<input type="checkbox"/> 様々な補助用具等の補助手段の活用	【5】【4】	<ul style="list-style-type: none"> ・座位姿勢安定のためのいす, 作業能率向上のための机, 移動のためのつえや歩行器及び車いす, 白杖等の補助用具を使用している。 ・車いすの使用が度重なることにより立位を保持する能力の低下を来す場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助用具を用途や目的に応じて適切な用具を選び十分使いこなせるように指導する。 ・発達の段階を考慮しながら, 補助用具のセッティングや収納の仕方を身に付けたり, 自分に合うように補助用具を調整したりすることを指導する。 ・自分の身体を積極的に操作するために, 視覚や触覚などを積極的に活用するように, 教材・教具を工夫する。 ・つえ, 車いす, 白杖等の活用にあたっては, 必要に応じて専門の医師及びその他の専門家の協力や助言を得る。 ・補助用具の使用の仕方を工夫し, 児童生徒の肢体の動きの維持や習慣を妨げないように十分留意する。 	
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること	<input type="checkbox"/> 身辺処理動作(食事, 排泄, 衣服の着脱, 洗面, 入浴等)の習得 <input type="checkbox"/> 書字, 描画等の学習のための動作の習得	【2】【4】	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基本動作が身に付いていない。 ・運動・動作が極めて困難で, 日常生活に必要な運動・動作のほとんどを介助に頼っている。 ・知的発達の程度に比較して, 細かな手指の操作が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身辺処理動作や学習のための動作等の基本動作を日常生活の中で使うことができるようになるまで, 習慣化する。 ・介助を受けやすい姿勢や手足の動かし方を身に付ける。 ・使いやすい用具等を用いながら, 手元をよく見るように指導する。注目させたい部分を視覚でとらえやすいように色を変えるなどする。 	8

	(4) 身体の移動能力に関すること	<input type="checkbox"/> 自力での身体移動や歩行 <input type="checkbox"/> 歩行器や車いすによる移動 <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な移動能力の向上	【4】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害がある。 ・筋力が弱く、歩行に必要な緊張が得られない。 ・心臓疾患があり歩行による移動が制限されている。 ・運動・動作が極めて困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な歩行技術の習得や援助を依頼する方法などを身に付け、白杖を有効に活用して一人で安全に目的地まで行けるようにする。 ・歩行器を用いた歩行、車いすによる移動を指導し、日常生活に役立つ移動能力を習得する。 ・必要に応じて歩行器や電動車いす等を活用し、心臓に負担をかけることなく移動の範囲が維持できるように工夫する。 ・姿勢保持や上下肢の基本動作などの指導経過を踏まえて幼児児童生徒に適した移動の方法を選択する。 ・車いすの操作に慣れるとともに、目的地まで車いすを操作し続けるための体力を身に付ける。 	
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	<input type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作の習得 <input type="checkbox"/> 巧緻性や持続性の向上 <input type="checkbox"/> 作業を円滑に遂行する能力の向上	【2】【3】	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体に不自由がある。 ・一連の作業において最後まで注意の集中が続かない。 ・手足を協調させて動かすことや微細な運動をすることに困難が見られる。 ・両手の協応や目と手の協応、その正確さや速さ、持続性などに課題がある。 ・自分のやり方にこだわりがある。 ・他者の意図を適切に理解することが困難であったり、一つの情報のみに注意を集中してしまったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内ゲームや戸外のスポーツの種目を通して、粗大運動での機敏さや持続性の向上を図ったり、各種の作品を制作する活動を通して、微細運動での正確さや速さの向上を促したり、単純な作業やゲームなどを繰り返す。 ・作業工程を分割し、一つ一つの工程に短時間集中することから始めて、徐々に作業に集中できる時間を長くする。 ・目的に即して意図的に身体を動かすことを指導したり、手足の簡単な動きから始めて、段階的に高度な動きをする。興味・関心を生かしながら、道具を使って指を動かす体験を積み重ねる。 ・作業における基本動作の習得や巧緻性、敏捷性の向上を図るとともに、目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などについて自己調整できるように指導する。 ・一つの作業について、いろいろな方法を経験させるなどして、こだわりを和らげる。 	8 9
【6】コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること	<input type="checkbox"/> 表情や身振り、各種の機器を用いた意思のやりとり <input type="checkbox"/> コミュニケーションに必要な基礎的な能力の習得	【3】【5】	<ul style="list-style-type: none"> ・障害が重度で重複している。 ・聴覚障害がある。 ・相手の了解を得ないで、物を使ったり、相手の使っている物を無理に手に入れようとする。 ・他の人の手を取って自分が欲しい物を取ってもらおうとする。 ・発声や指差し、身振りやしぐさなどをコミュニケーション手段として適切に活用できない。 ・他の人への関心が乏しかったり、他の人からの働き掛けを受け入れたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉によるコミュニケーションにこだわらず、本人にとって可能な手段を講じる。周囲の者が、表情や身振り、しぐさなどを細かく観察し、意図を理解する。 ・相手を注視する態度や構えを身に付けたり、自然な身振りで表現したり声を出したりして相手と関わるができるようにする。 ・児童生徒が示す行動は意思や要求を伝達しようとした行為であることを理解し、できるだけ望ましい方法で意思や要求などが伝わる経験を積み重ねる。 ・要求場面で、ふさわしい身振りなどを指導したり、発声を要求の表現として意味付けたりする。 ・教師との信頼関係を形成し、教師の言葉や動きに対する関心を高めるようにする。 	11
	(2) 言語の受容と表出に関すること	<input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号等を用いた相手の意思の受け止め <input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号等を用いた自分の考えの伝達	【3】【6】	<ul style="list-style-type: none"> ・内言語や言語の理解には困難がないが、話し言葉が不明瞭であったり、短い言葉を伝えるのに相当な時間がかかったりする。 ・聴覚障害がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発語機能の改善を図るとともに、文字の使用や補助的手段の活用を検討して意思の表出を促す。 ・言葉を構成している音節や音韻の構造、あるいは文字に関する知識等を用いて、言葉が使われている状況と一致させて、その意味を相手に適切に伝えていく。 	5 7 10 12

			<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害に伴い音声不明瞭でない。 ・構音障害がある。 ・他者の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身振りを状況に応じて活用したり、さらに手話・指文字や文字等を活用したりして、主体的に自分の意思を表出できるような機会を設ける。 ・発声・発声器官(口腔器官)の微細な動きや調整する力を高め、正しい発音を習得させる。 ・音を弁別したり、自分の発音をフィードバックしたりする力を身に付けさせる。 ・構音運動を調整する力を高めるなどして正しい発音を定着させ、発話の明瞭度を上げる。 ・話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したりするなど、他者との関わりやコミュニケーションの基礎について指導する。 ・絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用して相手の話を聞くことや、絵や記号を示したボタンを押すと音声が出る機器を活用して自分の話したいことを相手に伝えることなど様々なコミュニケーション手段を活用する。 	
(3) 言語の形成と活用に関すること	<input type="checkbox"/> 事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成 <input type="checkbox"/> 体系的な言語の習得	【2】【3】	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の状態が重度のため、話し言葉を用いることができず、限られた音声しか出せない。 ・聴覚障害があり、経験と言葉を結び付けることが困難、また、抽象的な言葉の理解に課題がある。 ・視覚障害があり、点字を常用して学習する。 ・文字や文章を読んで理解することに極端な困難を示す。 ・乳幼児期のコミュニケーションが十分に行われなかったことにより、言語発達に遅れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掛け声や擬音・擬声語等を遊びや学習、生活の中に取り入れて、自発的な発声・発話を促す。物語や絵本を身振りを交えて読み聞かせる。 ・児童生徒の主体性を尊重しながら、周りの人々による意図的な働き掛けを行う。話し言葉や書き言葉、指文字や手話を活用し、言語の受容・表出を的確に行うとともに、言葉の意味理解を深める。文法等に即した表現を促し、体系的な言語の習得を図り、適切に活用できるようにする。 ・触覚や聴覚、保有する視覚を適切に活用して、言葉の意味を正しく理解して活用できるようにする。 ・聞いて理解する力を伸ばしつつ、読んで理解する力の形成を図る。コンピュータのディスプレイに表示された文章が音声で読み上げられると同時に、読み上げられた箇所の文字の色が変わっていくようなソフトウェアを使って、読むことを繰り返し指導する。 ・まず良好な人間関係を形成し、そこでのコミュニケーションが円滑に行われるようにする。その上で、子どもの興味・関心をもっている事柄を利用して、言葉遊びを行ったり、作業や体験的な活動を取り入れたりする。 ・生活経験の記憶、言語化、関連付けなどを行う。 ・課題設定を工夫し、「できた」という経験と自信をもたせたり、コミュニケーションに対する意欲を高めたりする。 	2 5 7 12
(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること	<input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段の適切な選択・活用 <input type="checkbox"/> 円滑なコミュニケーション	【2】【3】【4】	<ul style="list-style-type: none"> ・音声言語の表出は困難であるが、文字言語の理解ができる。 ・進行性の病気により、運動機能が徐々に低下し、言葉による意志の表出や機器の活用が次第に困難になる。 ・自閉症があり、言葉でのコミュニケーションが困難である。 ・聴覚障害がある。 ・視覚障害がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆談で相手に自分の意思を伝えたり、文字板、ボタンを押すと音声が出る機器、コンピュータ等を使って、自分の意思を表出する。(上肢の運動・動作に困難がある場合には、下肢や舌・顎の先端等でこれらの機器等を操作できるように工夫する。) ・機器の活用が次第に困難になることがあるため、現在の状況だけで判断することなく、将来必要となるコミュニケーション手段を視野に入れて指導する。 ・自分の意思を適切に表し、相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために機器等を活用できるようにする。 ・指文字、キョード・スピーチ、手話等、それぞれの特徴を踏まえ、児童生徒の障害の状態や発達段階を考慮して、適切なコミュニケーション手段の選択・活用に努める。 ・点字キーボードでの入力や点字ディスプレイによる出力に慣れたり、拡大文字によるディスプレイ上での編集に習熟したりするなど、コンピュータを操作する技能の習得を図る。 	4 12

<p>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>□ 場や相手の状況に応じた、主体的なコミュニケーションの展開</p>	<p>【2】【3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害による経験の不足により相手や状況に応じたコミュニケーションに課題がある。 ・視覚障害により、場に応じた話題の選択や、部屋の広さや状況に応じた声の大きさの調節、話し方などに課題がある。 ・話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難なため、会話の内容や状況に応じた受け答えができない。 ・家庭では普通の会話ができるが、学校の友達とは話すことができないといった選択性かん黙がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が受け止めた内容に誤りがないかどうかを確かめたりすることなど、主体的にコミュニケーションの方法を工夫できるようにする。 ・実際の場面を活用したり、場を再現するなどして、適切なコミュニケーションを具体的に指導する。 ・相手と握手することにより、体格や年齢を推測して会話の糸口を見つけたり、相手の声や話の内容を注意深く聞くことで、部屋の広さや相手の状況を的確に判断したり、相手との距離に応じた声の出し方を調節したりするなど、場や状況に応じた話し方を身に付ける。 ・分からないときに聞き返す方法や相手の表情にも注目する態度を身に付ける。 ・気持ちを安定させ、安心できる状況作りや信頼感のある人間関係作りをした上で、興味・関心のある事柄について共感しながら一緒に活動したり、日記や作文などを通して気持ちや意思を交換したりする機会を多くする。状況に応じて、筆談などの話し言葉以外のコミュニケーション手段を活用する。 ・自己に対して肯定的なイメージを保つことができるよう配慮しつつ、自己理解を促す指導をする。 	<p>4 9</p>
----------------------------------	---------------------------------------	---------------	---	--	----------------

★自立活動の指導のためのチェックリスト(区分, 項目一覧表)

資料2-2

区分	項目	項目の内容
【1】健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input type="checkbox"/> 体温の調節 <input type="checkbox"/> 生活リズム(覚醒と睡眠などの健康状態の維持・改善)の獲得 <input type="checkbox"/> 食事や排泄などの生活習慣の形成 <input type="checkbox"/> 衣服の調節 <input type="checkbox"/> 室温の調節や換気 <input type="checkbox"/> 感染予防のための清潔の保持
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> 自分の病気の状態の理解と改善 <input type="checkbox"/> 病気の進行の防止に必要な生活様式の理解 <input type="checkbox"/> 生活の自己管理
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> 病気や事故等による神経, 筋, 骨, 皮膚等の身体各部の状態の理解 <input type="checkbox"/> 各部位の適切な保護と症状の進行防止
	(4) 健康状態の維持・改善に関する事	<input type="checkbox"/> 運動量の減少防止 <input type="checkbox"/> 体力低下の防止 <input type="checkbox"/> 日常生活における適切な健康の自己管理
【2】心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> 情緒の安定
	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> 場所や場面の状況の理解と心理的抵抗の軽減 <input type="checkbox"/> 変化する状況の理解と適切な対応方法の習得
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> 障害の状態の理解と受容 <input type="checkbox"/> 学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上
【3】人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 人に対する基本的な信頼感の形成 <input type="checkbox"/> 他者からの働きかけを受け止め, 応ずること
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動の形成
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なことの理解 <input type="checkbox"/> 自分の行動の特徴の理解 <input type="checkbox"/> 集団の中の状況に応じた行動の形成
	(4) 集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 集団の雰囲気に合わせてすること <input type="checkbox"/> 集団に参加するための手順やきまりの理解 <input type="checkbox"/> 遊びや集団活動への積極的な参加
【4】環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用
	(2) 感覚や認知の特性への対応に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性の把握を踏まえた, 情報の適切な処理 <input type="checkbox"/> 感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性への適切な対応
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 補助機器の活用 <input type="checkbox"/> 他の感覚や機器での代行手段の活用
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	<input type="checkbox"/> いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段の総合的な活用 <input type="checkbox"/> 情報収集や環境把握による的確な判断や行動の形成
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> ものの機能や属性, 形, 色, 音の変化する様子, 空間・時間等の概念の形成 <input type="checkbox"/> 獲得した概念を, 認知や行動の手掛かりとして活用すること
【5】身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input type="checkbox"/> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持 <input type="checkbox"/> 上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得 <input type="checkbox"/> 関節の拘縮や変形の予防 <input type="checkbox"/> 筋力の維持・強化
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 様々な補助用具等の補助的手段の活用
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> 身辺処理動作(食事, 排泄, 衣服の着脱, 洗面, 入浴等)の習得 <input type="checkbox"/> 書字, 描画等の学習のための動作の習得
	(4) 身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> 自力での身体移動や歩行 <input type="checkbox"/> 歩行器や車いすによる移動 <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な移動能力の向上
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作の習得 <input type="checkbox"/> 巧緻性や持続性の向上 <input type="checkbox"/> 作業を円滑に遂行する能力の向上
【6】コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事	<input type="checkbox"/> 表情や身振り, 各種の機器を用いた意思のやりとり <input type="checkbox"/> コミュニケーションに必要な基礎的能力の習得
	(2) 言語の受容と表出に関する事	<input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号等を用いた相手の意思の受け止め <input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号等を用いた自分の考えの伝達
	(3) 言語の形成と活用に関する事	<input type="checkbox"/> 事物や現象, 自己の行動等に対応した言語の概念の形成 <input type="checkbox"/> 体系的な言語の習得
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	<input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号, 機器等のコミュニケーション手段の適切な選択・活用 <input type="checkbox"/> 円滑なコミュニケーション
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事	<input type="checkbox"/> 場や相手の状況に応じた, 主体的なコミュニケーションの展開

実態把握票

児童生徒学年・氏名 ()

記載者氏名 ()

教員から見て	
保護者から見て	
子どもから見て	
心理・医療・福祉的 視点	
その他 指導上配慮が必要 なことなど	

【参考文献】

- ・21世紀の特殊教育の在り方に関する調査研究協力者会議 『21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）』（2001）
- ・社会福祉法人全国心身障害児福祉財団(2011)『新しい自立活動の実践ハンドブック』（同財団）
- ・北海道立特別支援教育センター 研究紀要第23号（2010）『自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の指導に関する研究』
- ・国立特別支援教育総合研究所（平成22年3月）『自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際研究 ～小・中学校における特別支援学級を中心に～』（同所）
- ・横浜市教育委員会（2011）
『横浜版 学習指導要領 特別支援学校・個別支援学級・通級指導教室編』
（株式会社ぎょうせい）
- ・安藤隆男(2002)『自立活動における個別の指導計画の理念と実践あすの授業を創造する試み』
（川島書店）
- ・文部科学省（平成21年6月）『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』（海文堂出版）
- ・福岡県教育センター 「調査研究」各班報告（平成23年度）『小・中学校 特別支援級 自立活動の指導の手引き』～授業づくりのための手順モデルシートの活用～
- ・山梨県情緒障害教育研究紀要（平成24年度第37集）
- ・中尾繁樹（2010）『「特別」でない特別支援教育③ みんなの「自立活動」特別支援学級・通級指導教室・通常の学級編』（明治図書）
- ・岡田智・三浦勝夫・渡辺圭太・伊藤久美・上山雅久（2009）『特別支援教育ソーシャルスキル実践集 支援の具体策93』（明治図書）
- ・安住ゆう子・三島節子（2010）『教室・家庭でいまずぐ使えるSST 楽しく学べる特別支援教育実践101』（わもがわ出版）
- ・田上不二夫・今里佳・岸田優代（2007）『特別支援教育コーディネーターのための 対人関係ゲーム活用マニュアル』（東洋館出版社）

【執筆／編集】

本ハンドブックは、山梨県総合教育センター「特別支援教育グループ（平成23年度～25年度）主事研究」の一環として作成しました。

研究主題 「特別支援学級における自立活動の指導に関する研究」

—自閉症・情緒障害特別支援学級を中心とした自立活動の指導ガイドブックの作成を通して—

【謝辞】

本ガイドブックの作成に関しては、研究協力校、研究協力員をはじめとして、多くの教育関係者の方々から、事例提供及び御指導・御助言をいただきました。御協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

「自閉症・情緒障害特別支援学級を中心とした自立活動の指導ガイドブック」

2014年3月

発行／山梨県総合教育センター 特別支援教育担当

山梨県笛吹市御坂町成田1456

電話：055-262-5571